市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－①	今帰仁村健康長寿体験滞在型観光の促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(1)－ア 沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進
担当部課名	福祉保健課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	・今帰仁村の健康につながる様々な資源を取り込み、来訪者に多様な健康づくりと観光活動の機会を提供する。「ヘルスツーリズム」推進し、民泊事業等による観光の振興を図る。本事業では、住民からのアンケート調査結果や会議を通し長寿の秘訣を探り、健康長寿基本システムを構築することで、体験滞在型観光を促進する。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,183	16,777	10,664	10,784	15,130
	(b) 予算現額	7,183	15,647	9,457	6,387	10,372
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 1,130	▲ 1,207	▲ 4,397	▲ 4,758
	(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計(b+d)	7,183	15,647	9,457	6,387	10,372
	B. 執行済額	4,836	15,647	9,457	6,387	10,372
	うち交付金充当額	3,868	12,517	7,566	5,109	8,297
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率（%）(B/A)	67.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：・減額した4,758円については、当初予定2回していたモニターツアーの開催が1回となったことと、当初予定の事務補助職員の2名から1名への減、アンケート調査分析解析報告書作成業務の額の確定に伴い３月補正において減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・ヘルスツーリズムの充実及びモニターツアーの開催（2回）	目　標	アンケート調査実施	プロジェクトチーム設立	ヘルスーリズム充実 モニターツアー開催2回	ヘルスーリズム充実 モニターツアー開催2回
	実　績	アンケート調査実施（報告書の完成）	プロジェクトチーム設立の実施	ヘルスーリズムの充実 モニターツアーの開催2回	ヘルスーリズムの充実 モニターツアーの開催1回
・健康長寿作戦会議の開催（3回） ・健康長寿作戦実施（3回）	目　標	3回	作戦会議3回 作戦実施3回	作戦会議3回 作戦実施3回	作戦会議3回 作戦実施3回
	実　績	3回	作戦会議3回 作戦実施3回	作戦会議2回 作戦実施25回	作戦会議3回 作戦実施25回

達成状況説明：
・推進委員会による健康長寿作戦会議を3回実施した。
・作戦実施としての行政区で健康づくりプログラムの立案については、事業計画に基づき3回を予定していたが、平成27年度3月の推進委員会において、これまでに実施された以外の行政区すべてにおけるプログラム立案が支持されたため13回実施した。また、プログラムの実施としての運動指導健康づくり教室12回を開催した。
・平成26年度から村観光協会と連携して作成している今帰仁村の魅力を発信するプロモーションビデオを今年度も作成した。また、県外からの健康長寿体験滞在型観光モニターツアーについては当初2回の予定であったが年度途中で1回に変更し開催した。
・平成24年度のアンケート調査事業で実施した調査の情報と、これまで収集された様々な健康関連情報との因果関係を明らかにし、健康寿命の延伸に向けた分析解析報告書作成を、琉球大学との委託契約により作成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（23年度）	26年度	27年度	28年度	目標値
・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・モニターツアーの開催（山形県酒田市20名　他東北の1県より20名）	目　標	（0） （0）	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・プロジェクトチームの会議（1回）	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・モニターツアーの開催2回	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・モニターツアーの開催2回	
	実　績		・地域で共に支えあう健康づくりプリグラムの立案と実施（立案会議のみ3回） ・プロジェクトチームの会議2回	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・モニターツアーの開催2回	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・モニターツアーの開催1回（山形県酒田市18名）	
【参考指標】 主要観光施設における観光客数	目　標	（248,500人）	（287,000人）	（300,000人）	（300,000人）	（　）
	実　績		286,215人	293,331人	301,479人	

進捗状況説明：
・主要観光施設（今帰仁城跡）における観光客数は、平成28年度目標人数の300,000人を超えた。
・行政区での健康長寿プログラム立案の会議を13回開催し、この村に住む者が地域で共に支えあうプログラムを立案した。
・運動指導健康づくりプログラムを12回開催した。
・平成26年度から実施している健康長寿体験滞在型観光モニターツアーについては、村観光協会から、大人の民泊についてはこの事業が初めてであることと、過去のツアー参加者からの指摘事項を改善し参加者の要望に応えるには開催回数を変更したいとの要望がより、当初予定していた2回を1回の開催に変更して実施した。
・今帰仁村観光協会との連携により、「長寿」「健康」「観光」を基本としたヘルスツーリズムツアープログラム化が図られた。

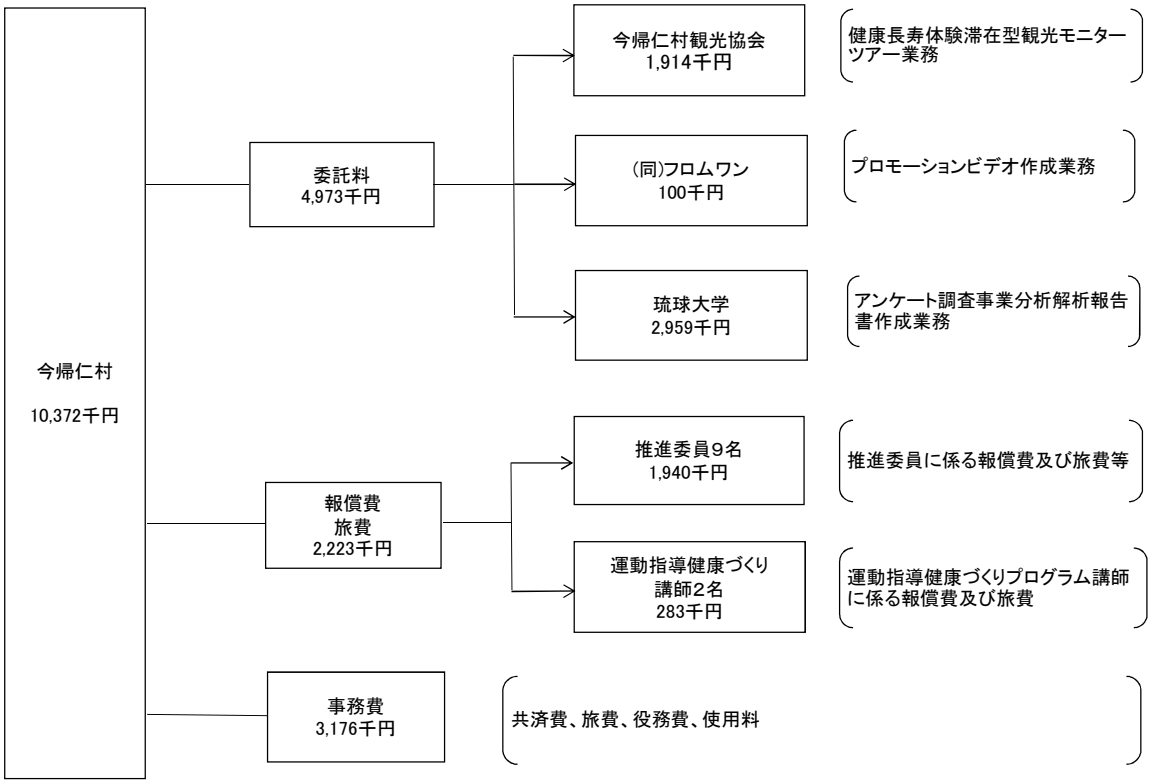
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・各行政区ごとの健康状況の特徴を提示して危機意識を共有し、自主的な健康づくり計画を立案する。 ・各行政区らしい取り組みにするための機会の創出。 ・健康づくりを個人の問題ではなく地域社会が取組むべき問題として捉え、同時に重要な課題として地域で支えあう取組みとしての推進。 ・観光協会との連携による健康長寿体験滞在型観光モニターツアーの継続的ツアーとしてのプログラム化。	・アンケート調査に基づく分析解析報告書による根拠に基づいた効果的な健康づくりの推進。 ・立案された地域で支えあう健康づくりプログラムのについての実施、検証、改善の継続。 ・健康長寿体験滞在型観光のモニターツアー終了によるヘルスツーリズム実施への移行。

今後の取り組み方針

・住民の主体的な健康づくり運動を村づくりにつなげる
・各行政区の関係者との協働により事業の相互理解を深め、地域の実情に合わせた健康問題、課題、解決策、健康づくり計画を立案し実施する。
・地域で共に支えあう効果的な健康長寿の推進を図り、ヘルスツーリズムを日常の関心事である「健康」と「観光」が融合した魅力ある本村のツアー商品とし、さらに地元住民と旅行者相互の交流による質の高いライフスタイルの形成に貢献する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,372	10,372	8,297	2,075	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料のモニターツアーについては、本事業の目的である今帰仁村観光協会との連携によるヘルスツーリズムを本年度も今帰仁村観光協会との契約を締結し実施した。また、アンケート調査事業分析解析報告書作成業務については、県内唯一の医学部がある琉球大学との契約を締結し、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、4,758千円の減額を行って適正であったと考える。 ○費目・使途については、事業目的達成のために必要最小限度のものに限定して執行している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－①	人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－（３）－イ 豊かな心とたくましい体をはぐくむ教育の推進
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（１）
事業内容	・小学生を対象に、山形県酒田市と将来の指導者育成の為、交流事業を行う。南国沖縄県にとって、本州の北に位置する東北地方はまさに「異文化」であり、異なる環境で生活している同年代との交流を行うことにより、子供達の視野の広がり及び教養に対する意欲と将来に向けての刺激を与える。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況 (a) 当初予算額	7,093	4,934	5,142	5,187	5,687
予算の状況 (b) 予算現額	7,093	4,894	5,076	5,138	5,227
予算の状況 (c) 増減額(b-a)	0	▲ 40	▲ 66	▲ 49	▲ 460
予算の状況 (d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－
予算の状況 A. 計(b+d)	7,093	4,894	5,076	5,138	5,227
B. 執行済額	4,692	4,894	5,076	5,138	5,227
うち交付金充当額	3,753	3,915	4,060	4,111	4,181
次年度繰越額	0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)	66.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：・旅行委託業務費について、平成27年度で平成28年度予算見積りを旅行業者より取得し5,000,000円で計上したが、平成28年度執行で4,539,240円となり約460,000円の差額が生じたので、減額処理を行い適正な執行を行った。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・派遣生徒数：36人	目　標	（36人）	（36人）	（36人）	（36人）
	実　績	36人	36人	35人	35人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・インフルエンザにより1名辞退者が出た。また、悪天候のため一部行程の変更があったが、その他は滞りなく事業を実施できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（23年度）	26年度	27年度	28年度	目標値
・酒田市浜中小学校との交流会の実施 ・酒田市内での民泊の実施 ・スキー体験の実施 ・報告会の実施（1回）	目　標	（36人）	（36人 報告会（1回））	・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会	・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会(1回)	（　）
	実　績		36人 報告会（1回）の実施	・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会（1回）	・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会（1回）	
	目　標	（　）	（　）	（　）		（　）
	実　績					

進捗状況説明：・参加者は、派遣後、報告会において団員の個人のテーマ、班のテーマの自己評価を各自発表した。また、グループに分かれて山形県と沖縄県との違い等を話し合い研修の振り返りを行った。また、教育長による地域や村のジュニアリーダーとしての講話を行った。その他、参加者全員の報告書の作成を実施した。

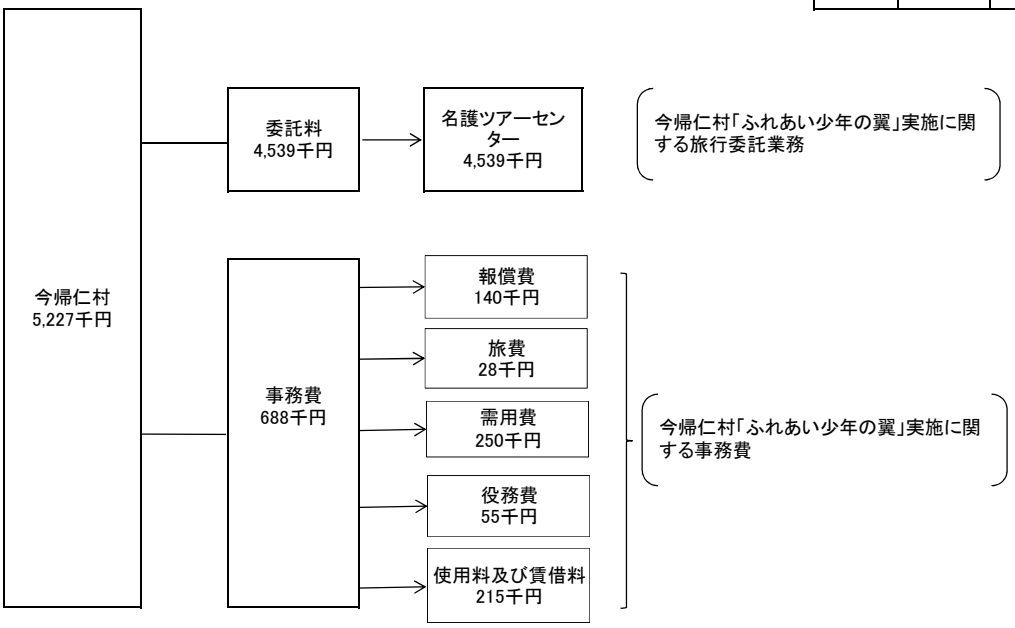
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・事前研修の時間は限られており、その中で参加者のチームワークを高め、かつ山形県や酒田市、沖縄県や今帰仁村について学習し、異文化への理解、交流の意義・意欲を高める工夫が必要となる。 ・雪国では急な天候の変化が予想される。それに対する参加者の心構え、引率者の連携等、行程の変更に柔軟に対応できる体制づくりが必要である。	・事業目的を踏まえ、沖縄県及び今帰仁村、山形県及び酒田市の地勢文化事前研修を増やしたことで、現地でより効果的な交流が行えた。 ・班毎のテーマを実行することに集中するあまり、個人のテーマが疎かになった傾向が見受けられたので個々の学習課題を再認識する。 ・悪天候（雹により東京大学視察の急な取り止め）や急病人（少人数の発熱や裂傷等）の発生等、予定変更や状況の変化に柔軟に対応できるように指導・体制は大方対応出来たが、悪天候においても交通機関運休等や多数の急病人が発症した場合の危機管理体制を更に想定し、研修を遂行する手立てが必要である。

今後の取り組み方針

・事前研修では、山形県や酒田市、沖縄県と今帰仁村の生活、文化、歴史等については、現地で効果的に交流が行えるよう更に充実したものとする。
・荒天時の研修が遂行できるよう引率者の役割を明確にする。急な予定変更にも柔軟に対応し、事業効果を損なわないような体制作りを強化する。団員の健康を最優先する。
・沖縄県及び今帰仁村の特産品等の紹介はできてきているので、特産品を持参したプレゼンテーションによるキャリア教育の実践を試みる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,227	5,227	4,181	1,046	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託業者については、随意（見積もり合わせ）契約で選定し妥当であったと考えている。 ○ 予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○ 将来の指導者育成の為、小学生を対象とした交流事業を行う目的の為の支出であり、関係する書類等を検証した結果適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	東ティモールと本村児童の交流推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－（４）－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（１）

事業内容	・東ティモールの児童を招聘し、本村3小学校との交流で国際感覚を育成し、今後、人道的支援を目指し、異文化交流を通して本村児童の人間性の育成や国際貢献できる人材の育成を図り、又、本村の小学校校歌の作詞関係者であるソプラノ歌手（講師）を村内の各学校に招聘し、コンサートと東ティモール支援に係る講演会を実施する事によって、本村児童と東ティモールの児童との交流が図られる。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,400	1,644	1,644	2,144	2324
	(b) 予算現額		1,644	1,643	1,643	2324
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,400	0	▲ 1	▲ 501	0
	(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	0	1,644	1,643	1,643	2324
B. 執行済額			1,644	1,643	1,643	2306
うち交付金充当額			1,315	1,315	1,315	1844
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)			100.0%	100.0%	100.0%	99.2%

予算の状況の説明：・予算の範囲内で適正な執行が行えた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・東ティモールからの受入児童数：4人、引率：2人	目　標	（受入児童数：4人 引率：2人）	（受入児童：2人 引率：3人）	（受入児童：4人 引率：2人）	（受入児童：4人 引率：2人）
	実　績	受入児童数：2人 引率：3人	受入児童：4人 引率：2人	受入児童：4人 引率：2人	受入児童：4人 引率：2人
・コンサートの開催（4回） ・講演会の開催（4回）	目　標	（　）	（　）	（・コンサートの開催4回 ・講演会の開催4回）	（・コンサートの開催4回 ・講演会の開催4回）
	実　績			・コンサートの開催2回 ・講演会の開催2回	・コンサートの開催3回 ・講演会の開催3回

達成状況説明：
・児童4人及び引率2人を招聘した。村内には6泊7日の滞在で、村内3小学校において交流会・交流学習・コンサートを行っている。交流学習では、習字やエイサー、調理実習をしたりして交流を深めることができた。また、宮良多鶴子さんによる東ティモールのお話やコンサートの中で平和の大切さや文化の違いを実感することができた。4名の児童は、村内の家庭に民泊し、各家庭でも国際交流を深めることが出来た。
・今回東ティモールのJICA職員で大使館の通訳として活躍しているペドロ氏が自費参加。
・今回は、3小学校と今帰仁中学校でコンサートと講演会を予定していたが、東ティモールからの来日に遅れが生じ今帰仁中学校との日程調整がつかず、本年度は3小学校だけでの開催となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
・東ティモールとの本村の児童との交流	目　標	（　）	（受入児童数：2人 引率：3人）	（・東ティモールとの本村の児童との交流）	（・東ティモールとの本村の児童との交流）	（　）
	実　績		受入児童数：4人 引率：2人	・東ティモールとの本村の児童との交流の実施	・東ティモールとの本村の児童との交流の実施	
・コンサート参加者750人 ・講演会参加者750人	目　標	（　）	（　）	（コンサート参加者700人 講演会参加者700人）	（コンサート参加者750人 講演会参加者750人）	（　）
	実　績			コンサート参加者614人 講演会参加者614人	コンサート参加者664人 講演会参加者664人	

進捗状況説明：
・児童4人及び引率2人を招聘し、本村3小学校の児童生徒等と交流活動を行った。具体的な交流活動としては、習字、エイサー、家庭料理の授業で調理実習等の交流学習を行った。
・4名の児童は村内の家庭に民泊し日本文化にふれ、受け入り家庭では東ティモールの実状を知り国際感覚が養われた。
・今回は、兼次・今帰仁・天底の3小学校だけで、コンサートと講演会を行ったため664名となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・東ティモールからの移動日数も一週間程度かかることから児童の体調面に考慮しなければならない。	・東ティモールのJICA職員で大使館の通訳として活躍しているペドロ氏が自費参加である為、通訳の旅費についても検討しなければならない。 ・招聘する児童の選考については、体力的な観点から「6年生に該当する児童」としている点や経済的な問題等から4名の招聘となった。 ・本事業は今年度で終了するが、国際交流は、別事業の中高校生海外語学留学支援事業で継続する。

今後の取り組み方針

・平成24年度（村単独予算）～平成28年度の5カ年間東ティモールの児童と本村児童との国際交流を行って来たが、新たな交流事業（鹿児島県和泊町）の始まりや
学校現場からの今後の対応が厳しい等の報告があり本事業を終了する。
・今後は、東ティモールのJICA職員で大使館の通訳として活躍しているペドロ氏・宮良多鶴子さんを架け橋として東ティモールとの交流を継続したい。
・児童生徒の国際交流は、別事業の中高生海外語学留学支援事業で実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,306	2,306	1,844	462	0

今帰仁村 2,306千円 → 委託料 2,306千円 → （有）名護ツアーセンター 2,306千円

（東ティモールと本村児童の交流に関する委託業務）

航空運賃 （デイリー香港～沖縄）	1,031
燃料・航空利用税	82
海外旅行総合保険	58
滞在費（ティモール国内）引率者送迎	90
現地滞在費	99
課外活動費	315
招聘運営費（沖縄での宿泊費等）	631
合計	2,306

資金の流れ、費目・使途の点検評価

評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者については、（有）名護ツアーセンターだけが実施しているため妥当であると考える。 ○予算規模については、適正であったと考える。 ○費用・使途については、交流事業遂行だけに支出しており適正であった。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－③	教育環境充実事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－(３)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(１)
事業内容	・児童生徒、個々に応じたきめ細かなサポートを行うため、各幼稚園、小中学校に支援員を配置する。また、幼稚園では預かり保育を実施する人員も確保し、保護者のニーズに対応する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	17,263	21,353	29,770	33,226	
	(b) 予算現額	16,826	19,855	21,294	19,369	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 437	▲ 1,498	▲ 8,476	▲13,857	
	(d) 前年度繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	16,826	19,855	21,294	19,369	
B. 執行済額		16,826	19,855	21,294	19,369	
うち交付金充当額		13,460	15,844	17,035	15,495	
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

予算の状況の説明

・幼稚園（預かり保育）は子ども・子育て支援交付金事業の導入により減と兼次（１人）・今帰仁小学校（１人）特別支援員の減により、当初予算より13,857千円の減額となったが、事業計画等は適正に進めることができた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・支援員・預かり含む配置人数 幼稚園（預）４人　（特）3人 小学校（学）３人　（特）８人 中学校（学）１人　（特）１人	目　標	幼（学）0人（特）2人 小（学）3人（特）6人 中（学）1人（特）0人	幼（学）0人（特）1人 小（学）3人（特）6人 中（学）1人（特）1人	幼（預）4人（特）0人 小（学）3人（特）8人 中（学）1人（特）1人	幼（預）4人（特）3人 小（学）3人（特）8人 中（学）1人（特）1人
	実　績	幼（学）0人（特）2人 小（学）3人（特）7人 中（学）1人（特）0人	幼（学）0人（特）0人 小（学）3人（特）7人 中（学）1人（特）1人	幼（預）0人（特）1人 小（学）3人（特）7人 中（学）1人（特）1人	幼（預）0人（特）2人 小（学）3人（特）6人 中（学）1人（特）1人
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

・幼稚園教育業務以外の一時預かり保育に係る事業費について、こども・子育て支援交付金事業の導入により4人減。
・幼稚園の特別支援の3人⇒2人で1人減。（募集したが、応募人員が足りなかった）
・小学校特別支援員の8人→6人で2人減。（募集したが、応募人員が足りなかった）
・各学校に学習支援員を配置した事で、支援を受けた児童・生徒の学習の改善が図れた。
・各学校に支援員を配置し、支援を受けた児童・生徒の困り感の改善が図られた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
・児童生徒の学力や学習意欲の向上 ・児童生徒が困ることなく、学校生活を送れるようにサポートを行う。	目　標	（　　）	・学力や学習意欲の向上 ・100%	・学力や学習意欲の向上 ・児童生徒へのサポート	・学力や学習意欲の向上 ・児童生徒へのサポート	（　　）
	実　績		・学力や学習意欲の向上が図られた。 ・100%	・学力や学習意欲の向上が図られた。 ・児童生徒へのサポートを行った。	・学力や学習意欲の向上が図られた。 ・児童生徒へのサポートを行った。	
	目　標	（　　）				（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・支援員を配置したことにより、学級全体に落ち着きが見られ、学習意欲の向上が図られた。
・支援員が児童生徒に寄り添うことで対人関係でのトラブル等も回避でき、学習に取り組むことができるようになった。

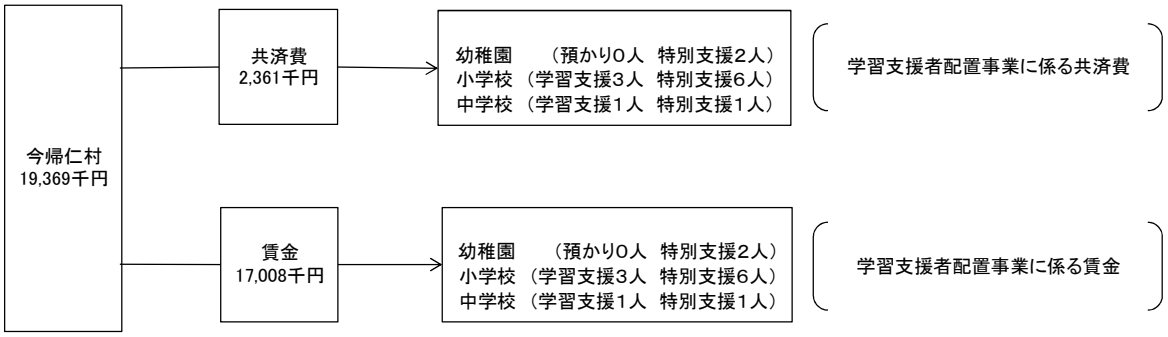
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・幼稚園の預かり支援員は別事業（子ども・子育て支援事業）から支出。 ・特別支援員は、資格等の要件は無く採用の為、きめ細かい支援が出来ない場面もある。 ・支援を要する幼児等の把握が難しい。	・次年度からは、幼稚園の預かり支援員は予算計上しない。 ・特別支援員の、スキルアップを図る。 ・村立保育所以外の幼児の状況把握に努める。

今後の取り組み方針

・学習支援員及び特別支援員は、学校経営上なくてはならない存在であるので今後も配置していきたい。
・特別支援員採用時に研修等を実施し、スキルアップを図る。
・村立保育所以外の幼児の状況把握に努め、幼稚園経営のスムーズな運営を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,369	19,369	15,494	3,875	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員については、ハローワークにて公募し面接で決定している。更に学習支援員においては、「教員免許の所持」を条件としており、適切かつ妥当な選定である。 ○予算規模については、13,857千円の減額を行ったが、適正であったと考える。 ○費用・使途については、学習支援員・特別支援員の共済・賃金等の支出費のみで、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－④	中高生海外語学留学支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章―５―（４）―ア 国際社会、情報社会に対応した教育推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ―３―（１）
事業内容	・英語を学ぶことへの関心・意欲を高めるとともに、「今帰仁村」の将来を担う、国際感覚豊かな人材育成のため、本村今帰仁中学校に在学する中学生2人（ハワイ2週間）及び北山高等学校に在学する本村出身高校生4人を（ジョージア州2週間）を対象に、夏季休学中に姉妹校等においてホームステイをする機会を与え、世界に羽ばたく人材を育成する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,992	1,992	2,126	2,562	
	(b) 予算現額	1,979	2,125	2,938	3,904	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 13	133	812	1,342	
	(d) 前年度繰越額	―	―	-		
	A. 計 (b+d)	1,979	2,125	2,938	3,904	
B. 執行済額		1,979	2,125	2,938	3,904	
うち交付金充当額		1,583	1,700	2,350	2,813	
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

予算の状況の説明

・中学生2人、高校生4人で計画していたが、平成26年10月アメリカジョージア州、ミルトン高校との姉妹締結を行った為、予算を増額し派遣する高校生を2人増員し6人を派遣した。増額予算の範囲内で適正な執行が行えた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・留学生徒数 ・中学生：2人 ・高校生：4人	目　標	（中学生：3人 高校生：2人）	（中学生：3人 高校生：2人）	（中学生：2人 高校生：4人）	（中学生：2人 高校生：4人）
	実　績	中学生：3人 高校生：2人	中学生：2人 高校生：3人	中学生：2人 高校生：6人	中学生：2人 高校生：6人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・平成27年6月にアメリカジョージア州、ミルトン高校から23名の交流生が来村、親交を深めた。
・年度途中人員・予算の増の為平成27年度予算12月増平成28年度交付金予算も決定されていたので変更が出来なかった。
・留学生徒数　中学生：2人　高校生：6人を派遣することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
・中学校、高等学校において、帰国後の海外留学報告会を全生徒、保護者、地域の方等の参加のもと開催し、留学の成果を広げ発信する。	目　標	（　）	通訳ボランティア活動の実施	通訳ボランティア活動の実施	中高生留学帰国者による留学成果の発信	（　）
	実　績		通訳ボランティア活動の未実施	通訳ボランティア活動の実施	中高生留学帰国者による留学成果の発信	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・各学校での全体集会にて研修内容等の発表を行い、異文化を肌で感じる意義、複眼的な視点での考え方を伝え好評を得た。また村学力向上推進大会にてPTA及び村民に対し、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰを用い研修、交流等の説明と異文化交流の有意性を伝えた。
その他活動として、今帰仁城跡桜まつりでの外国人観光客の通訳ボランティア活動、古宇利ハーフマラソンでの外国人観光客の通訳ボランティア、世界のウチナンチュ大会おいて、通訳ボランティアを実施し、他生徒へ同事業参加の意義・成果を伝えられた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・高校生の本研修開催時期を夏期の7月～8月に開催したいが、受け入れ校との日程調整が厳しく、今後の課題である。 ・研修に3年生も選考したいが古宇利ハーフマラソンや1月開催の桜まつり等での通訳ボランティアは必要なので、今後も、1年生～2年生を優先して研修に参加させる。	・各学校での全体集会にて研修内容等の発表を行う。 ・世界のウチナンチュ大会おいて、通訳ボランティアに参加させる。 ・本交流事業を理解して貰う為村学力向上推進大会で本事業を紹介したい。 ・1年生～2年生を参加させることにより、翌年度4月に開催される古宇利ハーフマラソンへや1月開催の桜まつり等への通訳ボランティア参加が容易になる。

今後の取り組み方針

・各学校での全体集会にて研修内容等の発表を行い、異文化を肌で感じる意義、複眼的な視点での考え方を今後も伝えたい。
・今後も世界のウチナンチュ大会おいて、通訳ボランティアに参加させ、本人の語学力を確認させる。
・本交流事業を理解して貰う為今後も村学力向上推進大会で本事業を紹介する。
・今後も、1年生～2年生を優先に選考し、翌年度4月に開催される古宇利ハーフマラソンへや1月開催の桜まつり等への通訳ボランティアで参加させ、大会運営に寄与させる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,904	2,813	2,250	563	1,091

今帰仁村 2,813千円 → 委託料 2,813千円

- (株)沖縄タイムスサービスセンター 765千円
  （今帰仁村中学生海外語学留学支援に係る委託業務 ※自己負担分（交付対象外経費）191千円（2割相当額）を除く。）
- 公益社団法人　日本国際生活体験協会 2,048千円
  （沖縄県立北山高等学校交流支援に係る委託業務 ※自己負担分（交付対象外経費）900千円（2割相当額）を除く。）

ハワイ州ホノルル近郊　　2名×95,5千円＝191千円
ジョージア州ワシントンD.C　6名×150千円＝900千円
合計　1,091千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○中学生の海外ホームステイは(株)沖縄タイムスサービスセンターのみが実施しているため選定方法は妥当であった。また、高校生海外留学も公益社団法人　日本国際生活体験協会を選定し事業を行い妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初より1,342千円増額を行い増額予算の範囲内で執行、予算規模については適正だと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○総事業費の2割相当額（1,091千円）を自己負担（交付対象外経費）としている為受益者負担は妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、個人負担分を徴収し食糧費等に使用し、交付対象事業費は、語学留学支援や交流事業費に使用し適正であった。

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑤	児童生徒等の県外派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章―５―（２）―ア
					教育機会の拡充
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ―３―（１）

事業内容

・小、中学校の児童生徒並びに今帰仁村に所在する県立高等学校の生徒が、各種スポーツ大会や文化関係大会に参加するための県外派遣の費用を支援する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,200	2,200	2,200	2200	
	(b) 予算現額	2,045	2,335	1,260	1,050	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 155	135	▲ 940	▲ 1,150	
	(d) 前年度繰越額	―	―	－	－	
	A. 計(b+d)	2,045	2,335	1,260	1,050	
B. 執行済額		2,045	2,335	1,260	1,050	
うち交付金充当額		1,636	1,868	1,008	840	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

予算の状況の説明

・児童生徒が県外で開催される運動競技会等に参加する際の派遣費用の補助金申請に対して適正に審査し補助金の金額を確定している。派遣人数が目標値を下回ったため、1,150千円を減額し執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・村内児童生徒等のスポーツ大会等への派遣費を補助する	目　標	（①　20人 ②156人）	（①　20人 ②156人）	（派遣費を補助）	（派遣費を補助）
	実　績	①19人 ②99人	①19人 ②98人	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施
	目　標		（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・運動競技会21件（92人）の派遣費用の補助を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
①県外少年団野球大会（派遣人数20人）	目　標	（　）	（①　20人）	（①　20人）	（①　20人）	（　）
	実　績		①　19人	①　0人	①　16人	
②県外スポーツ大会（派遣人数100人）	目　標	（　）	（②156人）	（②120人）	（②100人）	（　）
	実　績		② 98人	②105人	② 76人	

進捗状況説明

①県外少年団野球大会派遣人数が目標20人（1チームの登録人数）に対し派遣実績は16人（チーム総勢）で、目標値を4人下回る結果となった。
②県外スポーツ大会派遣人数が目標100人に対し76人で、目標値を24人（うち登録人数に満たない7人）下回る結果となった。
減少要因：派遣人数が下回る原因は、各種大会等において大会要項等による派遣条件の成績と推薦を収めなければならないが、今回は登録人数による減を除いた減少人数は17人で、高校駅伝で全国大会の出場権をとれなかったためである。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①県外少年野球大会への派遣20人を見込んでいたが、チーム加入人数の減少により4人届かず目標値を達成することが出来なかった。 ②全九州高等学校ホッケー大会、全九州高等学校陸上競技大会、九州ジュニア選抜インドアテニス大会など派遣対象となる団体競技大会が増え県外スポーツ大会への派遣100人を見込んでいたが、部員数の減少等により24人派遣目標に届かなかった。	・同制度の助成を受けるには、大会やコンクールなどで県外派遣条件の成績を収めることが必須である。年度毎に派遣人数を安定的に保つために各団体組織の運営指導方法を成果をあげるために検証していくことを試行錯誤しながら積み重ねていかないといけない。

今後の取り組み方針

・県外派遣条件の成績を収めるために、各団体組織の運営指導方法を検証したうえで強化策を立案し実践する。
・年度初めに各種団体等へ本事業の周知を図り、各種団体により強化策を講じることで本事業の積極的な利用を促す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,050	1,050	840	210	0

今帰仁村 1,050千円 → 補助金 1,050千円 → 補助金申請団体（21個人団体）

（小・中学校の児童生徒や県立高等学校の生徒が、県外で開催される各種スポーツ大会や文化関係大会に参加する際の派遣費補助金）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各団体の申請に基づき審査を行い、選定を行っているので妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、1,150千円の減額を行い、適正に執行している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金要綱に基づき航空運賃の補助（補助率1/2）を行っており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、その大会実績による派遣費補助の観点から必要なものであり適正である。

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－①	環境保全美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（２）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	住民課　経済課　建設課　教育委員会	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）
事業内容	・本村の観光拠点となっている今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、観光客受け入れ体制を整える。 また、地域環境の保全、地域住民及び観光客の安全と誘客を図り景観を保全するため、不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の対策を強化する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	28,333	50,120	32,728	30,694	27,731
	(b) 予算現額	28,333	48,672	35,097	32,961	31,540
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,448	2,369	2,267	3,809
	(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	28,333	48,672	35,097	32,961	31,540
B. 執行済額		25,282	48,672	35,097	32,961	31,540
うち交付金充当額		20,226	38,937	28,077	26,369	25,231
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		89.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：・当初、共済費・賃金は10ヶ月を予定していたが、必要な予算は11ヶ月分であったため1ヶ月分及び需用費等を含めた3,809千円の増額を行い、予算の範囲内で適正な執行が行えたと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・村内の観光地の美化作業の実施。 ・歴史・文化的な松並木の景観保全の実施	目　標	（27路線）	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施 花植え付けの実施	観光地の美化作業の実施 松並木の景観保全の実施
	実　績	27路線実施	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施 花植え付けの実施	観光地の美化作業の実施 松並木の景観保全の実施
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・今帰仁城跡、古宇利島を中心とした観光地及び観光ルートの美化を実施し、快適な観光客の受入ができた。
・今帰仁グスク桜まつりや古宇利島ハーフマラソンなど各種イベントで参加者が利用する施設や道路の美化作業も実施することができた。
・観光客が訪れる自然海岸周辺の保安林や接続道などの美化作業も実施することができた。
・今帰仁城跡を中心とした観光地及び村内文化財の危険木の伐採を実施し、快適な観光客の受入ができた。また、台風襲来前に、危険木等を撤去することで、台風の被害を少なくすることができた。
・ハブ捕獲・回収による駆除対策、不法投棄のパトロール、投棄物の回収や不法投棄防止看板設置等により、事業を幅広く実施することができた。
・歴史・文化的な松並木の樹木強化を図り、白アリの被害に対しても防除を行い景観を保全することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
①今帰仁城跡及び観光地の美化 ②観光ルートの美化（20路線）累積整備率（121路線）　60% ③歴史的・文化的な松並木の景観保全 白アリの防除60本　全体防除のうち防除率33%行う　累積防除率（185本）100% 樹木の強化 65本　全体強化のうち強化率30%行う　累積強化率（220本）100%	目　標	（　）	（　）	（　）	（①城跡、観光地美化）	（　）
	実　績				①城跡、観光地美化の実施	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（②20路線美化）	（　）
	実　績				②20路線美化の実施	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（③白アリ防除60本、樹木強化65本）	（　）
	実　績				③白アリ防除60本、樹木強化65本の実施	

進捗状況説明：
①：本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地美化を実施し快適な観光客の受入ができた。事業を5年間継続することにより、タイワンハブの拡散の抑制を図り、また、不法投棄のパトロールや投棄物処理及び不法投棄防止看板設置等により、観光客がより快適に観光を楽しめるように事業を強化することができた。
②：古宇利島や乙羽岳森林公園などへの観光ルート20路線の美化を実施した。
③：歴史・文化的な松並木の土壌改良剤による樹木の強化を図り、白アリの被害に対しても防除をおこない景観を保全することができた。また、樹木強化、白アリ防除事業については防除全体計画を達成することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・近年は、これまで観光地化されていなかった自然海岸、民家を活用した宿や飲食店などが脚光をあびており、観光客が訪れる場所や道路が増加している。その為タイワンハブによる咬傷、ゴミのポイ捨て及び不法投棄の増加が懸念される。 ・外部環境の変化としてここ数年今帰仁村において大きな松から樹勢が衰え枯れることがあったため3年間を通して、村内各地の歴史・文化的な松並木において大きな松を中心に樹木の強化及び白アリの防除を行い、景観を保全することが出来た。	・今後はさらに広範囲で、美化及び環境保全（ハブ駆除対策、不法投棄対策等含む）の事業を実施し安全で快適に観光ができるように、観光客受入を整えていく。 また、観光客数の増加に伴ってのゴミのポイ捨てや、不法投棄対策やポイ捨てゴミのパトロールや回収活動を強化していく。

今後の取り組み方針

・観光客が訪れ、利用する場所や道路が増加傾向にあり、美化作業の範囲が広がりつつあるため、地域住民からの情報収集に努め、優先度の高い場所や道路などポイントを絞った美化作業なども行い、効率的に観光客の受入体制を整えていく。
・タイワンハブなど危険生物の駆除や、不法投棄のパトロール、投棄物の回収・処理をすることにより、本村の自然・環境を保ち、観光の村として、環境美化にいっそうの取り組みをする。本村の観光拠点等の不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策等の事業を、次年度以降も継続実施して、さらにより深く実施していく。
・近年は、これまで観光地化されていなかった自然海岸が人気スポットとして脚光をあびており、自然海岸を訪れる観光客の増加に対応するため、海岸の清掃の美化作業なども実施していく。観光客数の増加に伴ってゴミのポイ捨てが問題となっているが、不法投棄対策やポイ捨てゴミのパトロールや回収活動によって村内の美化を図り、また来たいと思われる観光地をめざしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
31,540	31,540	25,231	6,309	0

今帰仁村 31,540千円

委託料 5,967千円	街路樹剪定等処理・白アリ被害の防除・樹木の強化	環境保全美化推進に係る委託料 **委託先** 街路樹等処理：沖縄北部森林組合 白アリの防除 ：（株）ﾌｧｰﾌﾞﾙ 樹木の強化 ：ｲｰﾋﾞｰｴｽ産興株式会社
共済費 2,229千円	賃金職員 17人	環境保全美化推進に係る共済費
賃金 16,604千円	賃金職員 17人	環境保全美化推進に係る賃金
需用費 3,711千円	燃料代・消耗品代等 （3,918千円－207千円＝3,711千円）	ハブ等販売料（雑入・△207千円）を需用費と相殺した。
役務費 120千円	家電リサイクル代・タイヤリサイクル代	環境保全美化推進に係る役務費
使用料 2,283千円	車リース料、機械使用料	環境保全美化推進に係る使用料
原材料費 189千円	砂・バラス・道路補修材料・足場板等	環境保全美化推進に係る原材料費
備品購入費 437千円	草刈機（4台）、芝刈機（1台）、チェンソー（1台）	環境保全美化推進に係る備品購入費

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当該事業に精通した北部管内の業者を選定し見積もり合わせ行い、最低価格者と随意契約を締結しており支出先選定関しては妥当と考える。 ○予算規模に関しては事業に必要なものに限定しており、適正な規模であると考える。 ○快適な観光客受入の観点から支出等は適正と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－②	風景づくり推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－（６）－ア
					沖縄らしい風景づくり
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）

事業内容

・各地域代表者で構成する意見交換会を開催し、景観整備に関する方針や景観形成に向けて重点的に取り組むべき区域等について検討する。また、景観づくりに関する支援要綱等を作成する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,850	4,281	3,182	3,954	3,790
	(b) 予算現額	3,850	4,035	2,916	3,780	3,564
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 246	▲ 266	▲ 174	▲ 226
	(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	3,850	4,035	2,916	3,780	3,564
B. 執行済額		3,570	4,035	2,916	3,780	3,564
うち交付金充当額		2,856	3,228	2,332	3,024	2,851
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		92.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明

・入札残による226千円を減額し、予算の範囲内で適正な執行が行えた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・地域代表者意見交換会の開催（2回）	目　標	（景観向上行動計画の策定）	（ハード事業・ソフト事業の行動計画の策定）	（・意見交換会3回）	（意見交換会2回）
	実　績	景観向上行動計画の作成	ハード事業・ソフト事業の行動計画の策定の実施	各字ヒアリング調査各字1回（全19字）	意見交換会1回
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

先進市町村及び関係団体へのヒアリング等を実施した結果、新たにフクギの樹形調査による目標樹形の設定及び補助の範囲についての検討の必要が生じたため、地域代表者意見交換会の開催を1回に留め、前述した調査・検討調査に時間と労力を要した。その後庁内関係各課で構成する景観むらづくりプロジェクトチーム会議及び区長会による地域代表者意見交換会を経て、景観づくりに関する支援要綱（案）の作成に留まった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
・景観むらづくり支援・助成等の要件や適用範囲などを定めた支援要綱を作成する。	目　標	（　　）	（ハード事業・ソフト事業の行動計画のとりまとめ）	（景観支援メニューの作成）	（支援要綱の作成）	（　　）
	実　績		ハード事業・ソフト事業の行動計画のとりまとめの策定	景観支援メニューの作成	支援要綱（案）の作成	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・地域の代表者により構成された区長会において意見交換会を行い、景観むらづくり支援に関する要望等を聴取した。また、プロジェクトチームにおいて景観むらづくり支援の実施に向けた調整、協議を行った結果、多くの村民の意見を聴取するためにパブリックコメントを実施することとなり、パブリックコメントによる意見を反映した支援要綱を作成するために、本年度は支援要綱（案）に留めたため、成果目標は未達成となった。

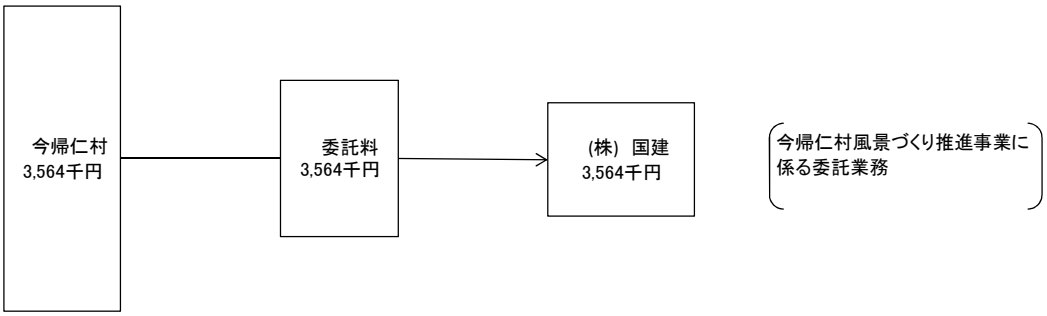
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・支援要綱の作成については、今年度事業で作成予定であったが、地域代表者意見交換会のみならず、当初の計画にはなかったパブリックコメントを実施し多くの村民の意見を聴取する必要が生じたため、支援要綱（案）の作成に留めた。	・平成28年度は、支援実施要綱（案）を作成した。風景づくりという定性的な性格の強い分野であり、費用対効果の算出及び支援の対象とする範囲設定が困難であった。当初の計画により、ある程度の範囲の設定は行っておく必要があったと考えられる。 ・風景づくり支援に関する周知及び多くの村民からの意見聴取を目的としたパブリックコメントを実施する必要があると考える。

今後の取り組み方針

・平成29年度以降は、パブリックコメント等の実施により作成した支援実施要綱を基に予算に応じた支援や助成等を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,564	3,564	2,851	713	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者についは、指名競争入札方式で行った為、妥当だと考える。 ○予算規模については、226千円の減額を行い、適正だと考える。 ○景観整備に関する方針や景観形成に向けて重点的に取り組むべき区域等について検討する観点から費用支出は必要であり、支出に関する書類により適正であることが確認できた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－③	観光力基盤強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ア 国際的な沖縄ブランドの確立
担当部課名	経済課　総務課　建設課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

・今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、「現代版組踊　北山の風」、今帰仁総合まつり、ハーリー、桜まつり、運天港いちゃり場まつり等のイベントを実施する。また、今帰仁村総合運動公園を高校駅伝やハーフマラソンの拠点とすることで、民泊事業の導入拡大を図り、村観光協会と連携し、観光関連産業の活性化につなげる。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況 (a) 当初予算額	31,514	25,550	24,300	20,530	18,000
予算の状況 (b) 予算現額	31,514	29,374	29,300	21,929	22,052
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	0	3,824	5,000	1,399	4,052
予算の状況 (d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－
予算の状況 A. 計 (b+d)	31,514	29,374	29,300	21,929	22,052
B. 執行済額	31,417	29,374	29,300	21,929	22,053
うち交付金充当額	25,134	23,499	23,440	17,543	17,641
次年度繰越額	0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）	99.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明

・桜まつり実施の際、電気照明施設の破損等による取り替えや、イベントの充実強化を図る為舞台音響整備等に250万円、ハーフマラソンの募集広報の強化を図る為150万円をそれぞれ増額補正し、当初計画していた事業内容はすべて実施できた。予算の執行に関しては適正であったと考える。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
①現代版組踊 「北山の風」開催（8月・10月・2月） ②古宇利ハーフマラソン開催（4月） ③今帰仁城跡ライトアップ桜まつり開催（1月）	目　標	イベント開催の支援	各種イベントの開催支援	①8月・10月・2月 ②4月 ③1月	①8月・10月・2月 ②4月 ③1月
	実　績	イベントの実施	各種イベントの開催支援	①11月（2回）・2月（2回） ②4月 ③1月	①7月（2回）・10月（2回）・11月（1回） ②4月 ③1月～2月
④今帰仁総合まつり開催（10月） ⑤今帰仁ハーリー開催（8月） ⑥三村交流事業開催（11月）	目　標	（　）		④10月 ⑤ 8月 ⑥11月	④10月 ⑤ 8月 ⑥11月
	実　績			④10月 ⑤9月 ⑥11月	④10月 ⑤10月 ⑥11月

達成状況説明

・現代版組踊、古宇利ハーフマラソン、桜まつり、今帰仁総合まつり、今帰仁ハーリー、三村交流事業については、計画通り実施及び開催ができた。
・今帰仁ハーリーについては、他ハーリー大会との日程調整つかず、やむを得ず10月に開催した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（23年度）	26年度	27年度	28年度	目標値
①現代版組踊「北山の風」来場数：1,200人（H26実績：1,150人） ②古宇利ハーフマラソン参加者数：3,600人（H26実績：3,503人） ③今帰仁城跡ライトアップ及び桜まつり来場者：48,000人（H26実績：47,927人） ④今帰仁総合まつり来場者：10,500人（H27実績：9,700人） ⑤今帰仁ハーリー大会出場者数:825人（H27実績：732人） ⑥三村交流事業来場者：1,000人（H27実績：900人）	目　標	（　）	① 1,000人 ② 2,500人 ③ 39,000人	① 1,200人 ② 3,500人 ③ 40,000人	①1,200人 ②3,600人 ③48,000人	（　）
	実　績		① 1,150人 ② 3,503人 ③ 47,927人	① 1,288人 ② 3,471人 ③ 34,645人	① 2,302人 ② 3,555人 ③48,750人	
	目　標	（　）	④ 10,000人 ⑤ 770人 ⑥ 800人	④ 10,500人 ⑤ 825人 ⑥ 900人	④ 10,500人 ⑤ 825人 ⑥ 1,000人	（　）
	実　績		④ 10,000人 ⑤ 814人 ⑥ 800人	④ 9,700人 ⑤ 732人 ⑥ 900人	④ 10,500人 ⑤ 800人 ⑥ 1,100人	

進捗状況説明

・現代版組踊、古宇利ハーフマラソン、桜まつり、今帰仁村総合まつり、三村交流事業については計画どおり実施及び開催ができた。
・現代版組踊については、他のイベント（まるごとなきじん観光・物産と芸能フェア公演）や他事業（えらぶ世の王没後600年記念事業沖永良部和泊公演）とのタイアップなどで公演回数が1回増えたことと収容人数の多い屋外会場（1500名）で公演をしたことで目標来場者数を大幅に上回ることができた。
・古宇利ハーフマラソンについては、県内及び県外参加者がわずかに増えたが、外国語の案内ホームページや電話対応など外国人の申込受入れ体制が十分でなかったため、海外参加者はほぼ同数で目標参加者数に達することができなかった。
・桜まつりについては、節目のイベントとして内容を充実して取り組み、天候にも恵まれた結果、前回来場者数を大幅に上回ることができた。
・今帰仁村ハーリーについては、関係者等にPRすることにより目標とする来場者数を達成し実施することが出来た。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・現代版組踊については、事業補助金及び自主公演でのチケット収入のみでは、経費の面で厳しい部分があるため、入場者数の確保や公演活動を拡大していくことが難しくなってきている。 ・古宇利ハーフマラソンについては、定員4,000名には達しない状況にある。外国人参加者への受入体制については、大学留学生などとの連携により整えられつつあるが、外国人向け（多言語）に対応した募集案内・受付、問い合わせなどへの体制を充実する必要がある。 ・桜まつりについては、節目のイベントとしてラジオ公開生放送など内容を充実して取り組み、桜の開花時期や天候にも恵まれた結果、前回来場者数を大幅に上回ることができた。 ・今帰仁ハーリー開催するにあたり村内外からの参加者、観光客の参加が増加に転じるよう、他地域の動向、広報活動及び内容の充実を図る必要がある。 ・三村交流事業については、フェリー遊覧の乗船料に対し、テナントにて利用できるクーポン券を配布したことで、テナントの充実を図った。また、三村の交流を目的とするイベントを実施した。 ・世界のウチナーンチュ大会の関連イベントとして、世界のナキジンチュ大会を開催し、その翌日に今帰仁まつりを開催し、海外からの村関係者、移住2世、3世の誘客を図った。	・現代版組踊については、村外及び県外への情報発信を行い、活動の実績を広くPRし他イベントや他事業から招聘されることで経費の縮減を行い、更なる入場者数の増加につなげることができる。 ・古宇利ハーフマラソンについては、米軍基地内や台湾からの参加者が多くなってきているため、募集案内・エントリー受付、問い合わせなどに英語や中国語で対応できるよう体制整備を図ることで、参加者数の増加につなげることができる。 ・桜まつりについては、来場者が集中する時間帯があるため、イベントの開催時間や内容及び場所の見直しなどを行うことで、来場者の分散化が図られる。 ・三村交流事業については、クーポン券により、遊覧乗船者のテナント利用が増えたことで、飲食物の量が不足する業者があった。そのためテナントに対してクーポン券の把握及び連携の強化を行う。 ・ナキジンチュ大会と合わせて今帰仁総合まつりを開催し、集客も増えたが、海外からのお客様向けのイベントの開催までは出来なかった。 次回開催時の検討課題として取り組んでいきたい。

今後の取り組み方針

・現代版組踊については、村外及び県外に活動の状況を広く情報発信し、関係団体等と連携を図ることで招聘されるよう活動を展開していく。併せて、村内公演も継続し、地域や子供たちへのPRを行い、組織の維持・強化に努めていく。
・古宇利ハーフマラソンについては、外国人が大会に関する情報入手や申込手続きなど容易にできる体制を整備することで、参加者数の増加につなげていきたい。また、参加者の宿泊については、教育民泊ではなく一般向けの民泊施設も整いつつあることから、村観光協会及びツアー会社と連携し、村内宿泊施設で対応できない部分を一般向けの民泊施設で受け入れられるよう体制を整備する。併せて、年間を通じて民泊施設が利用される環境を整備し、観光関連産業の活性化を図る。
・桜まつりについては、混雑の解消に努め、来場者が安全に楽しくイベントを楽しむことができるよう体制整備を図ることでリピート率を高めていく。
・三村交流事業は、まつりの回数を重ねるごとに徐々に知名度が上がりつつある。今後は、さらに来場者を増やせるように広告・宣伝に力を入れるとともにイベントの充実を図っていく。
・今帰仁総合まつりは村民及び観光客等に飽きさせないような各種イベントの充実を図っていく。村外のお客様から評価の高い闘牛大会については更に工夫を凝らして誘客に繋げるようPRを進めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
46,242	22,052	17,641	4,411	24,190

今帰仁村 22,052千円

- 補助金 2,996千円 → 北山てぃーだの会 2,996千円
  （現代版組踊「北山の風」上演に係る交付対象外経費 1,941千円を除く）
- 補助金 4,500千円 → 古宇利ハーフマラソン実行委員会 4,500千円
  （ハーフマラソン開催に係る交付対象外経費 17,205千円を除く）
- 補助金 9,492千円 → 桜まつり実行委員会 9,492千円
  （桜まつり開催に係る交付対象外経費 1,211千円を除く）
- 補助金 3,000千円 → 今帰仁総合まつり実行委員会 3,000千円
  （今帰仁総合まつり開催に係る交付対象外経費 600千円を除く）
- 補助金 1,000千円 → 今帰仁ハーリー実行委員会 1,000千円
  （今帰仁ハーリー開催に係る交付対象外経費 764千円を除く）
- 補助金 1,064千円 → 三村交流事業実行委員会 1,064千円
  （三村交流事業開催に係る交付対象外経費
  伊平屋村 1,100千円を除く
  伊是名村 1,100千円を除く
  今帰仁村 269千円を除く）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ イベントを開催する実行委員会に限定し、選定を行っており妥当な選定だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模については、各実行委員会でのイベントに見あった適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 補助金については、各実行委員会において、事業費の一部を負担しており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 各イベントの事業目的達成の観点から、費用額及び使途については必要なものであり、支出は適正であった。

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－④	観光地安全強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通整理員を配置する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,543	4,464	4,591	4,933	5,276
	(b) 予算現額	5,543	4,284	4,536	4,698	5,130
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 180	▲ 55	▲ 235	▲ 146
	(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	5,543	4,284	4,536	4,698	5,130
B. 執行済額		4,284	4,284	4,536	4,698	5,130
うち交付金充当額		3,427	3,427	3,628	3,758	4,104
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		77.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明	・146千円を減額し予算内での適正な執行が行えた。減額した理由は入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・交通整理員の配置：4人（12月～2月） ・今帰仁城跡来訪者安全対策の実施	目　標	（城跡来訪者の安全対策）	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策
	実　績	城跡来訪者の安全対策の実施	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策の実施	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策の実施	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策の実施
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明	・世界遺産今帰仁城跡に入場するためには券売所から村道を渡らないと入場できず、繁忙期の12月～3月は観光客が増加し、レンタカー等の交通量が多く危険な状況である。本事業で交通整理誘導員を配置することで、車両と観光客の事故を事前に防ぐことが可能となり、安全に観光客の往来ができるようになった。

成果目標（指標）及び進捗状況

		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
・今帰仁城跡来訪者（約270,000名見込）の安全の確保（12月～2月）	目　標	（　　）	城跡来訪者の安全の確保	城跡来訪者の安全の確保	城跡来訪者の安全の確保	（　　）
	実　績		城跡来訪者の安全の確保の実施	城跡来訪者の安全確保の実施	城跡来訪者の安全確保の実施	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明	・本事業で交通整理誘導員を配置することで、車両と観光客の事故を事前に防ぐことが可能となり、安全に観光客の往来ができるようになった。また、歴史文化センターや大型バス駐車場などの誘導もスムーズにでき、受入態勢を強化することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成28年度は今帰仁城跡の入場者数が30万人を突破し、今後も多くの観光客等の増加が見込まれ、更なる安全対策が課題である。繁忙期の12月～3月に交通整理誘導員を配置することで、観光客の安全・安心の確保強化に取り組むことが必要である。	・今帰仁城跡を訪れる観光客の増加傾向が続くことが予想され、現状のままだと人員が足りない可能性がある。観光客の安全確保を図るため、今後は人員を増やすことも検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・平成28年度、県内の観光客の増加の恩恵を受け、今帰仁城跡の入場者数は初めて30万人を突破した。やんばるの主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全確保を図るため、繁忙期の12月～3月に車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通整理誘導員を配置することで、今帰仁城跡の安全安心をより一層発信することができ、更にリピーター確保が期待されることから、継続実施していきたい。また、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど更なる世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客が安全に観光ができるよう取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,130	5,130	4,104	1,026	0

今帰仁村 5,130千円 → 委託料 5,130千円 → 北部警備保障（株） 5,130千円

（今帰仁城跡来訪者安全対策にかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、来訪者等安全対策実施の予算であり、適正規模であると考えている。 ○費目・使途については事業目的達成に必要な委託料のみであり、適正であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑤	今帰仁城跡周辺環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

・今泊集落内を流れる普通河川（今泊港川）の整備を図ることにより、河川敷きなどの空間の有効活用、治水の安全度を図るなど、河川全体の自然環境を最大に活かした河川再生は重要な施策である。今帰仁城跡を訪れる観光客又は海浜を訪れる観光客の安全・安心な河川を再生し観光基盤を強化する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	27年度繰越	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	61,900	47,124	57,237	－	54,534
	(b) 予算現額	51,841	47,872	54,237	－	42,076
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 10,059	748	▲ 3,000	－	▲ 12,458
	(d) 繰越額	35,818	―	－	17,964	0
	A. 計 (b+d)	51,841	47,872	54,237	17,964	42,076
B. 執行済額		51,841	47,872	36,273	17,964	42,076
うち交付金充当額		41,473	38,298	29,018	14,371	33,661
次年度繰越額		0	0	17,964	0	0
執行率（%）（B/A）		100.0%	100.0%	66.9%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明

・工事発注に伴う、入札残(予定価格42,678,000円税抜き⇒入札価格38,000,000円税抜き)である。
・今帰仁村の他事業で事業費執行となったため、本事業費の大幅な減額となった。また、本事業は、継続事業であることから、単年度事業については、優先的に事業費の配分となるため、今後も年度ごとの本事業費の減が予想される。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・今泊港川(延長560m)の下流左岸部分(70m)の工事	目　標	（12筆分筆測量 河川工事　L＝90m）	（改修工事（左岸） L＝90m）	（左岸工事 L＝92m）	（左岸工事 L＝70m）
	実　績	13筆分筆測量 河川工事　L＝90mの完成	改修工事（左岸） L＝88mの完成	左岸工事 L＝57m	左岸工事 L＝70m
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・平成27年度事業費は、用地及び補償の交渉に時間を要したことから、繰越す要因となったが、平成28年度は、用地及び補償の交渉に問題もなく推進することができた。また、用地費については、次年度工事範囲箇所の用地を先行取得することができた。　・河川延長560mのうち河川整備工事（左岸L＝70m）の工事を実施した。当初計画していた延長L=70mを達成できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
・全体計画における6.2%整備　累積整備率27.3% ・今帰仁城跡付近を流れる今泊港川を整備することで、河川敷きなどの空間を有効利用、治水安全度の向上が図られることはもとより、観光客の安全・安心な観光基盤を構築することができる。	目　標	（　）	改修工事（左岸） L＝90m	（改修工事（左岸） L＝92m）	（改修工事（左岸） L＝70m 全体計画における6.2%整備　累積整備率27.3%）	（　）
	実　績		治水安全度の向上が図られた L＝88m工事の完成	治水安全度の向上が図られた L＝57m工事の完成	治水安全度の向上が図られたL＝70m工事の完成。全体計画における6.2%整備　累積整備率27.3%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・河川延長560mのうち河川整備工事（左岸L＝70m）の工事を実施し、目標を達成することができた。累計延長305mとなり27.3%実施済みとなった。また、平成28年度の下半期において、H29年度工事箇所の用地を取得することができたことから、平成29年度は、5月～6月に発注準備を行い、7月末までに工事を発注する計画である。

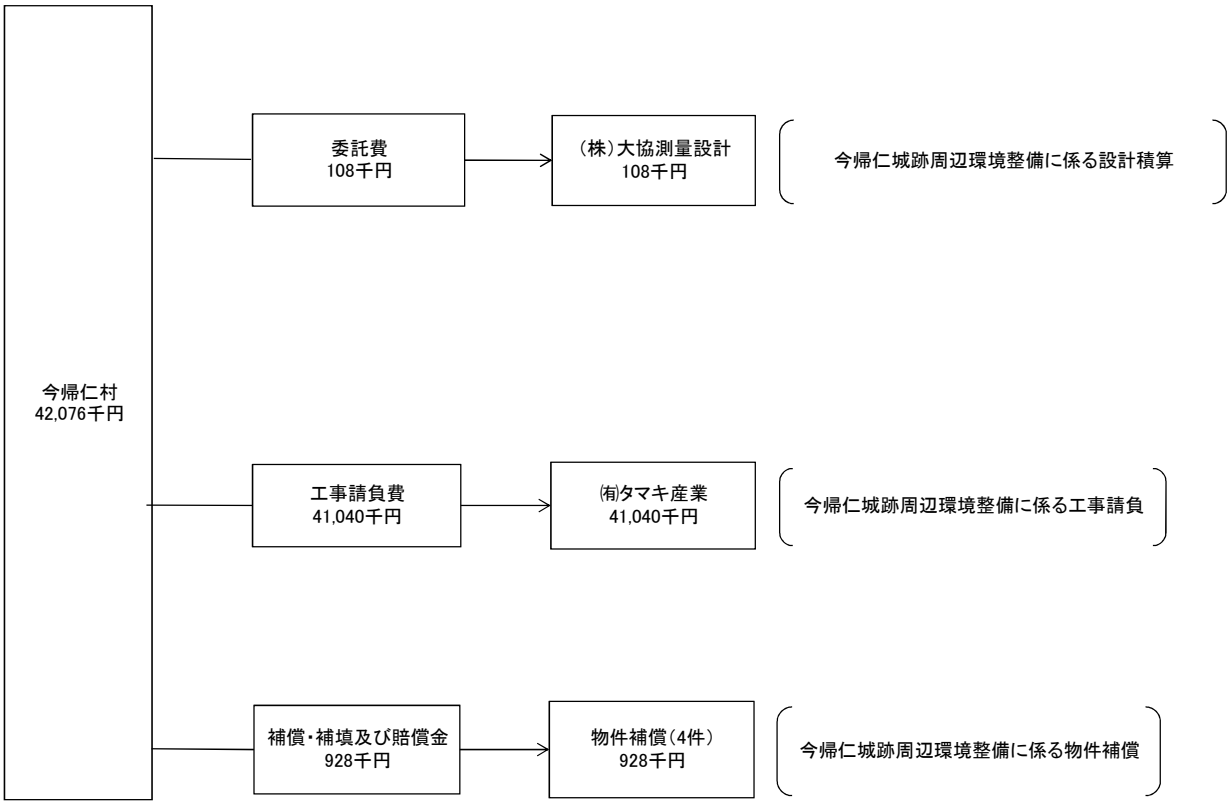
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・工事実施の際は、河川環境に配慮し、大型土のうの設置等により、赤土流出防止を図る。	・次の工事区間において仮設道路として、農地を使用する必要があることから、地権者との調整を4月～5月で調整を行う必要がある。また、工事の早期発注に努め、現場の状況をよく把握し、隣接住民の意見や地域の特性も反映しながら、改修工事を推進する必要がある。

今後の取り組み方針

・今後は、継続して用地取得に係る地権者の調整を早急に取り組み、早期の工事発注を行う。また、本事業を整備することにより、世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客へ配慮した河川の景観に効果が得られることから、今後も河川敷の空間を有効活用し、治水安全度の向上を図るため、継続して事業を推進していく必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
42,076	42,076	33,661	8,415	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者及び工事業者に関しては、指名競争入札方式で選定し、適切に執行した。 ○予算規模については、予算内で工事発注することができたことから、適正規模であった。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑥	今帰仁城跡ガイド強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－エ 世界に通用する観光人材の育成
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

・今帰仁村には世界遺産今帰仁城跡が所在し、今帰仁グスクを学ぶ会によって来場者に無料ガイドが行われている。学ぶ会の更なる充実強化を図ることで、ガイド個々の資質向上が図られ、今帰仁城跡の魅力を観光客にアピールすることが出来るためガイドの強化を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,560	3,769	3,690	3,660	
	(b) 予算現額	3,210	3,690	3,690	3,660	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 350	▲ 79	0	0	
	(d) 前年度繰越額	－	―	―	－	
	A. 計 (b+d)	3,210	3,690	3,690	3,660	
B. 執行済額		3,210	3,690	3,690	3,660	
うち交付金充当額		2,568	2,952	2,952	2,928	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率 （%） (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

予算の状況の説明

・予算内での適正な執行が行えた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・案内に資する知識を得るために講演会（1回）及び研修会（2回）を開催する。	目　標	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	講演会1回 研修会2回	講演会1回 研修会2回	講演会1回 研修会2回
	実　績	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	講演会1回実施 研修会3回実施	講演会2回 研修会4回	講演会1回 研修会2回
	目　標	（　　）		（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

・北山滅亡600年記念講演会（5/13開催／135名参加）、新人マナー研修会（10/10開催／20名参加）、沖永良部研修（11/14～16開催／21名参加）の開催、他団体主催の研修会への参加、城跡等文化財散策ツアーの実施を通して、ガイドの資質向上が図られている。なお、ガイド会員43名である。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		25年度	26年度	27年度	28年度	目標値
・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	目　標	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	（　　）
	実　績	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	
・ガイドによる来訪者の案内11,800名目標	目　標	（　11,000　）	（　11,600名　）	（　11,700名　）	（　11,800名　）	（　　）
	実　績	11,419名	12,603名	12,782名	12,095名	

進捗状況説明

・講演会、研修会等の実施を通してガイドの資質向上を図り、催事に合わせて実施した文化財散策ツアー等により、案内ガイドの訓練実績を重ねている。来訪者に対しわかりやすく今帰仁城跡の歴史を解説することで、今帰仁城跡のアピールにつながり、リピーターの獲得にもつながっている。また、夏場の閑散期には積極的に来訪者に声をかけることで、平成28年度の来訪者への案内は、目標数値を上回る12,095名の案内実績を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ガイド資質向上に資する講演会や研修会、イベントにあわせたガイドツアー等を実施することにより、ガイド会員の知識と案内技術の向上に努めている。一方、高齢化等に伴うガイドメンバーの減少がみられ、増員を実施する必要がある。	・平成28年度、県内の観光客の増加の恩恵を受け、今帰仁城跡の入場者数は初めて30万人を突破した。平成29年度も観光担当部局との連携による観光客誘致活動を引き続き進めていく予定であり、さらなる入場者数の増加を見込んでいる。また、文化財部局と連携し、ガイド養成講座を実施し、ガイドメンバーの増員を図る。

今後の取り組み方針

・今後も講演会、研修会、見学会等を実施して、さらに案内に資する知識や経験を重ねていく。また、行政側はガイド養成講座を実施することで、メンバーの増員、案内実績を増やせるようバックアップする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,660	3,660	2,928	732	0

今帰仁村 3,660千円 → 委託料 3,660千円 → 今帰仁グスクを学ぶ会 3,660千円

（今帰仁城跡ガイド強化にかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者である「今帰仁村グスクを学ぶ会」は、ガイド業務について約10年の実績があり、業務の計画や現場の現状に詳しく、この種の業務に精通した人員を擁しており、妥当な委託先である。 ○予算規模については、適正規模である。 ○費目・使途についてはガイド業務を行う上で必要なものに限定されており、適正であることを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑦	今帰仁村総合運動公園施設機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（１）－イ「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）

事業内容

・「体験滞在観光を促進する」「着地型・周遊観光を実施する」を基本方針として、観光振興を強化する。観光客の受入れ体制を整えるため、村内の観光スポットの美化・整備を強化し、住民への景観形成への意識を高め、今帰仁村の観光地としての知名度を上げ、集客につなげる。既存の施設を活用し、スポーツによる交流など今帰仁村を目的地とするよう観光の通年化を図る。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	27年度（繰越）	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	55,000	100,000	100,000		60,000
	(b) 予算現額	55,145	100,000	136,028		69,871
	(c) 増減額 (b-a)	145	0	36,028		9,871
	(d) 繰越額	0	0	0	78,562	0
	A. 計 (b+d)	55,145	100,000	136,028	78,562	69,871
	B. 執行済額	55,145	115,211	57,438	78,562	69,871
	うち交付金充当額	44,116	92,168	45,950	62,850	55,896
	次年度繰越額	－	－	78,592	0	－
	執行率（%）(B/A)	100.0%	115.2%	42.2%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明

・イベント広場造成建設工事において張芝を50%張を100%　に、バックヤードに収納木製建具を設置したことで9,870千円の増額を行い、園内動線・外柵・遊具等測計委託についても計画どおり執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・園内動線・外柵・遊具等測量設計委託	目　標	（サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事）	（・多目的広場設計委託）	・村営プール改修調査設計委託 ・村営プール改修工事 ・管理倉庫建設工事	・園内動線・外柵・遊具等測量設計委託
	実　績	サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事の実施	・多目的広場設計委託の実施	・村営プール改修調査設計委託の実施 ・村営プール改修工事の実施 ・管理倉庫建設工事の実施	・園内動線・外柵・遊具等測量設計委託の実施
・イベント広場造成建設工事	目　標	（　）	（　）	（　）	（・イベント広場造成建設工事）
	実　績				・イベント広場造成建設工事の実施

達成状況説明

・園内動線・外柵・遊具等測計委託を計画どおり執行した。

・イベント広場造成建設工事を計画どおり執行した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
・園内動線・外柵・遊具等計測設計委託の完成	目　標	（　）	（・多目的広場設計委託の完成）	・村営プール改修調査設計委託の完成 ・村営プール改修工事の完了	・園内動線・外柵・遊具等計測設計委託の完成	（　）
	実　績		多目的広場設計委託の完成	・村営プール改修調査設計委託の完成 ・村営プール改修工事の完了	・園内動線・外柵・遊具等計測設計委託の完成	
・イベント広場造成建設工事の完了	目　標	（　）			（・イベント広場造成建設工事の完了）	（　）
	実　績				・イベント広場造成建設工事の実施完了	

進捗状況説明

・イベント広場造成建設工事により、各種イベントや常時憩える芝広場として整備した。

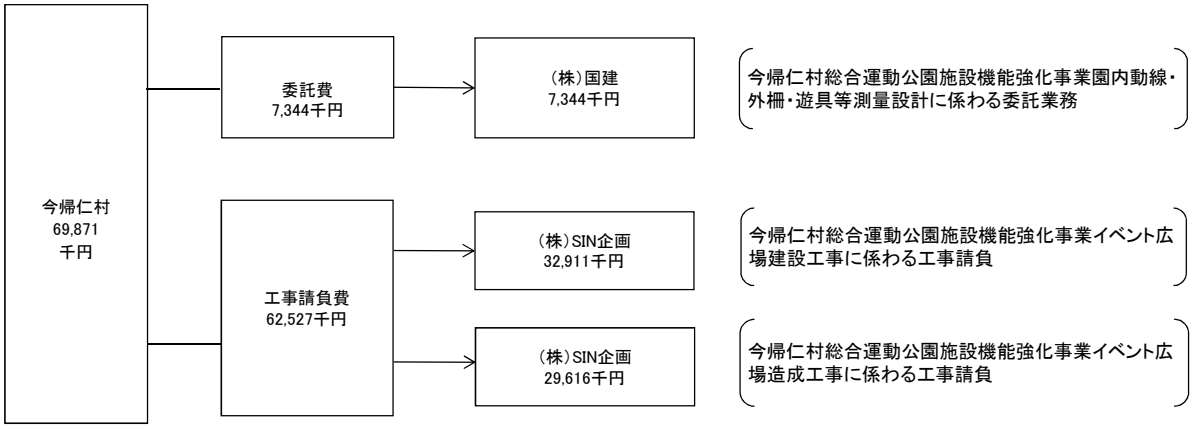
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・イベント及び大会日以外の日常での有効利用を積極的に宣伝する必要がある。 ・常設ステージが整備され、毎年開催の古宇利島マジックアワーRUN：ハーフマラソン、ノルディックウォーキング大会、ディスクゴルフ大会等の開閉会式やダンス等の演技場として使用できる。また、平常時のダンス等の練習場と利用できる。 ・芝広場においては、老若男女、家族、団体で気軽に集える憩いの場を創出できた。	・平成29年4月1日より供用開始で供用期間も浅いため、村内外への周知により利用を促進する。

今後の取り組み方針

・運動公園の利用頻度が向上する施設機能強化事業として、村外利用者の合宿等の受入数及びリピーターの増加を当事業の主眼として捉え、合宿・キャンプを目的とした利用者の技術の向上や健康増進を定着させることで、施設利用による交流人口を増加させ観光産業に付随した地域活性化となるよう、学童スポーツクラブや中高の部活動及び大学サークル等の各種団体へ整備された施設を宣伝することで合宿・キャンプ誘致の活動を推進する。
・イベント広場をイベント会場の主施設としながら、演技場、憩い交流の場として有効利用する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
69,871	69,871	55,896	13,975	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託・工事事業者は指名競争入札方式で選定しており、適切に執行した。 ○予算規模ついては、9,871千円の増額を行ったが適正規模である。 ○費目・使途については、業務完成検査及び工事竣工検査を実施しており、目的に即し必要なものであると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑧	今帰仁村魅力発信事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

・今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、今帰仁村の魅力を県内外に広くPRし、フェア開催後の村への誘客を目的に那覇市のタイムスホールにおいてイベントを実施する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000				
	(b) 予算現額	5,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	5,000				
B. 執行済額		5,000				
うち交付金充当額		4,000				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

・当初計画していた事業内容はすべて実施し、予算内での適正な執行が行えた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
・文化・芸能イベントの開催 ・観光案内、各種イベントの情報発信	目　標	（　イベントの開催　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	イベントの開催			
・特産品の展示販売	目　標	（　展示販売　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	展示販売の実施			

達成状況説明

・平成28年7月22日～24日、那覇市のタイムスビルにおいて今帰仁村の物産・観光・郷土芸能等のPRイベントを開催した。
・物販ブース9店舗・飲食ブース4店舗・展示販売ブース3店舗の出店。
・観光PRブースの設置と村内の観光地等紹介映像の上映。
・村内ロケ映画の無料上映、村内各地の伝統芸能の披露と現代版組踊「北山の風」の公演。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		28年度				
・来場者数　7,000名	目　標	（　7,000名　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	4,762名				
・特産品販売額　9,000千円	目　標	（　9,000千円　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	5,069千円				

進捗状況説明

・事業への取組がやや遅く、文化・芸能イベントの演目決定が遅くなり、チケット販売の期間が十分にとれなかったため、来場者数、特産品の販売額が伸びず、目標を達成することが出来なかった。
・TV・ラジオCM、新聞での特集ページとラジオ番組（計7回）のレポートで今帰仁村の観光・物産・芸能のPRにはなったが、実際のイベント来場者が伸び悩んだ。
・スイカやマンゴー等を全国発送できる配送ブースも設置していたが、PRが足りなかったためか、想定より利用者が少なかった。
・商工会実施の「経営・技術強化支援事業」を活用し、専門指導員によるブース内レイアウトやPOPの指導を行い、販売体制の強化を行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・他イベントと開催日時が重なり、来場者の減少も考えられる。 ・今帰仁村が村外にPRしたいスイカやマンゴー等の青果物の出荷時期に開催できたことは良いが、来場者がイベント当日の天候に大きく左右されるため商品搬入量には十分留意しなければならない。	・夏休み最初の週末での開催ということもあり、来場者を多く見積もったが、同日に開催された中体連や浦添てだこ祭り等周辺の開催イベントの確認が必要であった。 ・那覇市のタイムスビルという場所柄、食事目的での来場者も多く、飲食ブースをより充実させた方が良いと感じた。 ・文化・芸能イベントの来場者を飲食・物販ブースへ取り込むため、チケットに飲食・物販ブースで使えるクーポンをつけて販売したが、目標売上額には達せず、来場者の平均購入価格が1,064円と伸び悩んだ。今後は来場者のターゲットを絞ったイベント開催の方法も検討したい。 ・文化・芸能イベントの演目については早期に内容を決定し、チケット販売期間の延長と練習期間の延長により公演を更に充実したものとし、次回以降の改善点とする。

今後の取り組み方針

・今回の推進上の留意点・改善余地の検証を踏まえ、今後のより良いPRイベントの開催方法を検討し、次回計画の策定、開催につなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,000	5,000	4,000	1,000	0

今帰仁村 5,000千円 → 委託料 5,000千円 → 今帰仁村商工会 5,000千円

・今帰仁村内の観光スポット、各種イベントの紹介
・今帰仁村内で生産された加工品
・工芸品販売・今帰仁村の飲食店による村の食材を使用した食品の販売
・今帰仁産の青果物等の販売
・今帰仁村の伝統芸能・文化公演の開催

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は村内商工業者の統括を行っており連携・協力を得やすいことや、地元産品のPRイベント等の実績もある今帰仁村商工会と随意契約を行った。委託先として妥当である。 ○実施したイベントに見合った適正な予算規模となっている。 ○受益者からは出店料のほかに、公演チケットの販売協力等でも応分の負担をしており、妥当である。 ○支出等に関する書類を確認したところ適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

	３－⑨	景観形成強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー3－(2)ーウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	・昔ながらの今帰仁村の景観が残る集落内の道路整備を行うことにより、観光客の集落内への受け入れ体制を強化する。 また、村が管理する道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等を整備し、車輌の安全及び歩行者が安全で歩きやすい歩行空間を確保することで、集落の深部への観光客受入れ体制を整える。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	25年度（繰越）	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	50,430		59,830	63,472	53,300
	(b) 予算現額	50,430		51,829	62,637	57,160
	(c) 増減額 (b-a)	0		▲ 8,001	▲ 835	3,860
	(d) 前年度繰越額	－	14,350	－	－	－
	A. 計 (b+d)	50,430	14,350	51,829	62,637	57,160
B. 執行済額		36,094	14,350	51,829	62,637	57,159
うち交付金充当額		28,875	10,972	41,463	50,110	45,727
次年度繰越額		14,336	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		71.6%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%

予算の状況の説明	・農道張りコン工事実施の際、当初想定していなかった足場仮設費が発生したため増額となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・観光客等が歩きやすい歩行空間の確保（道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵設置等）	目　標	（道路の舗装、粉塵防止、防護柵設置等）	（道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等設置）	（道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等設置）	（道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等設置）
	実　績	道路の舗装、粉塵防止、防護柵設置等の実施	道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等設置の実施	道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等設置の実施	道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等設置の実施
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	・景観に配慮し、観光客が安全に通行（歩行）できるよう観光ルートとなっている必要な箇所の整備（道路の舗装工事、粉塵防止、防護柵設置工事、雑草防止工事）を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
・快適な観光アクセスルートの整備（3.8km　全体計画の20%） 累積整備率（19.1km）　100%	目　標	（　）	（4.2km 整備率26%）	（4.2km 整備率26%）	（3.8km 整備率20%）	（　）
	実　績		4.2km 整備率26%	4.2km 整備率26%	3.8km 整備率20%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	・安全で快適なアクセスを可能にするため舗装・張りコンクリート・防護柵設置を行い、より集落内へ観光客を導き、さらなる観光拠点へのアクセスを容易にし観光客数の増へと寄与した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・道路の舗装や張りコンクリート・防護柵設置により、安全に集落内へ観光客を誘導することができた。しかし、レンタカー等の急速な利用増加により観光客が訪れる場所の多様化で、更なる整備範囲の拡大が求められる。	・新たな観光地域における未整備箇所への対応が必要な箇所があり、継続的に景観形成強化事業を進めていく必要がある。

今後の取り組み方針

新たな観光地域に今帰仁村内の景観に配慮した整備を進めていく。
・排水路側溝敷設（上運天・運天・古宇利）
・簡易舗装（崎山・仲宗根）
・張りコンクリート（平敷・渡喜仁）

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
57,159	57,159	45,727	11,432	0

今帰仁村 57,159千円 → 工事請負費 57,159千円 →
- (有)島政建設 7,774千円 〔与那嶺平敷簡易舗装工事に係る工事請負〕
- (有)旭土建 24,635千円 〔諸志与那嶺簡易舗装工事に係る工事請負〕
- (株) 匠 23,508千円 〔諸志・吉事幹線農道張りコン設置工事にかかる工事請負〕
- (株)沖縄工設 1,242千円 〔今帰仁村防護柵設置工事にかかる工事請負〕

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村の契約規則に基づき、工事請負業者は指名競争により入札を行い、選定は妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は設計額に基づき発注しており適正な規模である。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○景観に配慮し、観光客が安全に通行（歩行）できるよう観光ルートとなっている必要な箇所の整備を実施に伴い支出した費目関しては書類により確認でき適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑩	村営闘牛場機能強化整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（２）－ア
					国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）

事業内容

・沖縄の伝統興行である「闘牛」を後世へ継承していくために、闘牛大会を定期開催し、地元の闘牛ファンのみならず県外観光客を呼び込む観光資源として有効活用し、伝統興行の活性化を図るため、村営闘牛場の機能強化を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	11,613				
	(b) 予算現額	10,800				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 813				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	10,800				
B. 執行済額		10,800				
うち交付金充当額		8,640				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

・入札残により813千円を減額したが、予算の範囲内で適正に執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
・村営闘牛場機能強化事業における、測量業務、調査設計委託業務の実施	目　標	（ 測量調査設計委託 ）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	測量調査設計委託業務の実施			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

・当初より予定していた①測量業務、②土質調査業務、③待機小屋設計、④スロープ設計（闘牛をトラックから乗降させる場所）、⑤トイレ設計、⑥待機小屋周辺舗装設計、⑦ステージ屋根設計、⑧客席張りコン設計、⑨既存待機小屋解体設計、⑩既存トイレ解体設計、⑪その他闘牛場内改修工事設計など、闘牛場機能強化整備事業測量調査設計委託業務を計画どおり執行した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		28年度	29年度	30年度	31年度	目標値
・村営闘牛場機能強化における、測量業務、調査設計の完了	目　標	（ 測量調査設計委託の完了 ）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	測量調査設計委託業務の完了				
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・①測量業務、②土質調査業務、③待機小屋設計、④スロープ設計（闘牛をトラックから乗降させる場所）、⑤トイレ設計、⑥待機小屋周辺舗装設計、⑦ステージ屋根設計、⑧客席張りコン設計、⑨既存待機小屋解体設計、⑩既存トイレ解体設計、⑪その他闘牛場内改修工事設計など、闘牛場機能強化整備事業測量調査設計委託業務が完了した。平成29年度においては、これらの業務で取得した設計書及び図面などの成果品を基に機能強化整備工事を実施する。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村営闘牛場の改修を行うことで機能強化が図られ、県外観光客を呼び込む観光資源として「闘牛」を有効活用できるものと考えている。団体観光客や修学旅行生などへのPRを行い、体験メニューの1つとして活用できるよう取り組んでいかなければならない。	・村観光協会や他市町村、北部闘牛組合などとの連携を図ることで、観光客向けに行う闘牛を体験メニューの1つとしてPRしていく必要がある。 ・村観光協会で実施している教育民泊で1つの体験メニューとして闘牛の試合の観戦や写真撮影など実施することで、観光資源として有効活用することができる。

今後の取り組み方針

闘牛場機能強化整備事業測量調査設計委託業務の完了により、平成29年度においては工事及び工事施工監理に着手し、村営闘牛場の機能強化を図り、伝統興行の活性化につなげていきたい。平成30年度においては、村観光協会で実施している教育民泊などで1つの体験メニューとして闘牛の試合の観戦や写真撮影などを実施することに取り組み、体験商品を創出する。平成31年度においては、年2回定期開催されている闘牛大会を年3回開催し、県外観光客を呼び込む観光資源として有効活用し、持続的な伝統興行の活性化につなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,800	10,800	8,640	2,160	0

今帰仁村 10，800千円 → 委託料 10，800千円 → （有）ヨシ企画設計 10，800千円

（村営闘牛場機能強化整備事業測量調査設計委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については813千円を減額したが適正な規模であったと考えている。 ○村営の闘牛場であるため施設の整備については、村で行い、闘牛組合など他団体などが闘牛場を利用する際には、管理条例に基づき利用料を徴収する仕組みであり、受益者との負担関係は妥当であると考えている。 ○費目・使途については、当初の計画に基づき測量調査、設計業務の委託料にのみ支出しており、また支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー3ー(7)ーア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー1ー(6)
事業内容	・安定した素牛生産地の確立のための今帰仁村和牛改良組合が、沖縄県農業協同組合の貸付牛を導入する際に、導入牛の価格に対し支援を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況 (a)当初予算額	10,500	10,500	10,500		
予算の状況 (b)予算現額	10,252	10,139	10,199		
予算の状況 (c)増減額(b-a)	▲ 248	▲ 361	▲ 301		
予算の状況 (d)前年度繰越額	－	－	－		
予算の状況 A. 計(b+d)	10,252	10,139	10,199		
B. 執行済額	10,252	10,139	10,199		
うち交付金充当額	8,201	8,111	8,159		
次年度繰越額	0	0	0		
執行率（%）(B/A)	100.0%	100.0%	100.0%		

予算の状況の説明：・1頭あたり平均48万円の補助となったため減額となったが、予算の範囲内で適正に執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）	達成状況	26年度	27年度	28年度	29年度
・繁殖牛を導入する際に1頭あたり50万円を上限に支援を行う	目　標	1頭あたり50万円を上限に補助	1頭あたり50万円を上限に支援	1頭あたり50万円を上限に支援	（　）
	実　績	1頭あたり50万円を上限に補助の実施（平均1頭41万円）	1頭あたり50万円を上限に支援の実施（平均1頭44万円）	1頭あたり50万円を上限に支援の実施（平均1頭48万円）	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・セリ相場の変動等もあり、1頭あたり平均48万円の補助となったが、高得点候補牛の導入が出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
・繁殖牛　21頭導入 ・全体計画のうち　導入率12%行う ・累積導入率(67頭)　39%	目　標	（　）	21頭導入 導入率：12.5%	21頭導入 導入率：12.5%	・繁殖牛21頭導入 ・全体計画のうち　導入率12%行う ・累積導入率(67頭)　39%	（　）
	実　績		25頭導入 導入率：14.8%	23頭導入 導入率：13.6%	・繁殖牛21頭導入 ・全体計画のうち　導入率12．5% ・累積導入率(69頭)41%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・平成28年度において、全体計画の12．5%の21頭を導入することができた。事業実施3年が経過し累積導入率(69頭)41%となり成果目標を上回る実績となった。今後も全体計画の169頭導入へ向けて事業を実施していく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・前年度より県内導入の割合が増えており、今後も県内での導入牛を増やすことを視野に事業を行う。 ・牛のセリ価格の上昇が続いており、村内農家に対し平等に導入支援が出来るように事業を行う。 ・3年間をとおして累積導入率（69頭）41%となっているが、まだ事業実施していない農家もある。	・今回も、早い時期より事業実施が行えたが、まだ導入していない農家もあるため、安定した生産地の確立のためにはより多くの農家に対し優良な母牛の導入支援を行うことが必要である。

今後の取り組み方針

・生産者の意識も向上してきており、より高得点の見込まれる雌牛導入を目指す。
・和牛改良組合、JA、関係機関を含め年間を通して、県内・県外おける優良雌牛の情報に努める。
・今年度で累計導入頭数が69頭となった。今後も全体計画の168頭導入へ向けて円滑な事業実施をしていく。
・多くの農家へ導入支援ができるよう未実施農家への情報提供を積極的に行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
24,691	10,199	8,159	2,040	14,492

今帰仁村 10,199千円 → 委託料 10,199千円 → 沖縄県農業協同組合 10, 199千円

（今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業に関する委託
（受益者負担額：14,492千円））

総事業費	24,691千円
交付対象事業費	10,199千円
受益者負担	14,492千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○沖縄県農業協同組合は実績もあり村和牛改良組合とも連携を図れることから妥当であったと考える。 ○予算規模については、301千円の減額をしたが、適正規模と考える。 ○受益者負担は、14,492千円となっており負担関係は妥当だと考える。 ○安定した素牛生産地の確立のための観点から必要な支出であり、関係する書類の確認により費用支出は適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	幼保連携一体化施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー2ー(2)ーイ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	幼保連携室	事業実施（予定）年度	平成27～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー4
事業内容	・就学前の子どもを持つ家庭の育児支援や連続性のある幼児教育、保育環境を創出し、保育サービスの拡充と地域の子育てニーズや新制度に対応したバランスのとれた総合的な子育て支援を行うため、就学前の幼児教育・保育を一体的に担う「幼保連携一体化施設」の整備を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,986	110,934			
	(b)予算現額	8,856	102,859			
	(c)増減額(b-a)	▲ 130	▲ 8,075			
	(d)前年度繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	8,856	102,859			
B. 執行済額		8,856	102,839			
うち交付金充当額		7,084	82,271			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	99.9%			
予算の状況の説明		・入札残により8,075千円の減額をしたが、予算範囲で適正な執行が行えた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
・実施設計、用地測量及び地質・磁気探査、造成設計の業務委託	目　標	（・基本計画の検討）	（・実施設計、用地測量及び地質・磁気探査、造成設計の業務委託）	（　）	（　）
	実　績	・基本計画の策定	・実施設計、用地測量及び地質・磁気探査、造成設計の業務委託の完了		
・用地購入	目　標	（・基本設計の検討）	（・用地購入）	（　）	（　）
	実　績	・施設計画の策定	・用地取得完了		

達成状況説明

・実施設計業務平成29年3月24日、用地調査測量業務平成29年3月8日、造成設計及び地質・磁気探査業務平成29年3月24日業務完了した。
・平成29年3月2日用地取得完了した。
・その後、幼保連携一体化施設の平成31年4月開園に向け、造成・外構・建築工事を実施し、待機児童の解消や保育サービスの拡充、子育てニーズへの迅速な対応を図る。
・「幼保連携一体化施設」とは、保育所と幼稚園の機能を合わせもつ幼児教育・保育施設（幼保連携型認定こども園）である。本村では保・幼・小・中・高の一貫教育「北山学園プロジェクト」を進めており、同施設は保・幼・小の校種間連携の中心施設として位置付けている。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値
・幼保連携一体化施設の実施設計及び造成設計の完成	目　標	（　）	（基本計画の決定）	（・幼保連携一体化施設の実施設計及び造成設計の完成）		（　）
	実　績		（基本計画の決定）	・幼保連携一体化施設の実施設計及び造成設計業務の完了		
・幼保連携一体化施設予定地の用地測量及び地質・磁気探査の実施	目　標	（　）	（　）	（・幼保連携一体化施設予定地の用地測量及び地質・磁気探査の実施）	（　）	（　）
	実　績			・幼保連携一体化施設予定地の用地測量及び地質・磁気探査業務の完了		
・幼保連携一体化施設予定地の用地購入及び登記の完了	目　標	（　）		（・幼保連携一体化施設予定地の用地購入及び登記の完了）		（　）
	実　績			・幼保連携一体化施設予定地の用地取得及び取得用地の登記完了		

進捗状況説明

・幼保連携一体化施設実施設計書業務を完了した。その実施設計書を基に園舎建築工事を実施する。
・幼保連携一体化施設造成設計書の完成、用地測量及び地質・磁気探査業務を完了した。用地測量及び地質・磁気探査業務完了により、建物の配置や基礎を決定させ、造成設計書を完成することができ、来年度以降には造成工事、外構工事を実施する。
・幼保連携一体化施設予定地の用地購入及び登記を完了した。よって、来年度以降の工事を計画どおり実施することができる。

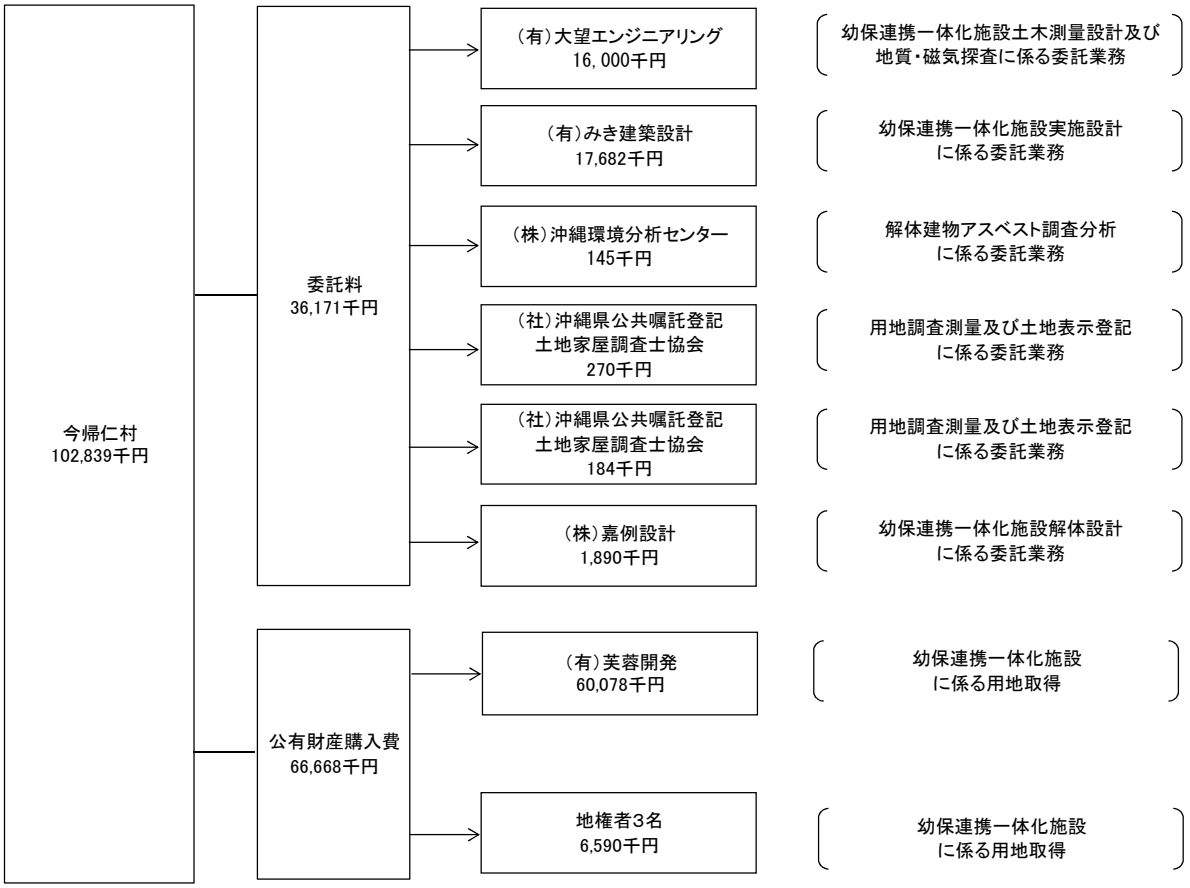
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・前年度に策定した基本設計をもとに、土木測量設計及び地質・磁気探査業務、実施設計を実施した。 ・用地買収については、一部分筆登記した土地を含め民有地16筆を買収し、事業予定地を確保した。 ・事業予定地には既存建物があり、建築から30年以上が経過しており、図面等もなく建築材へのアスベスト使用も確認できなったため、解体設計及びアスベスト調査を実施し、解体工事の積算を行った。 ・購入した用地に既存建物があるため、平成29年度にはまず解体工事を行う必要があるが、財産処分の手続きに時間を要しているため、発注に遅れが生じている状況にあり、年度内の完了を目指し、早期着手する必要がある。	・平成28年度の業務については、計画どおり進んでいる状況にあり、今後も計画どおり平成31年4月1日の開園に向け、解体、造成、外構、建築工事を実施していく考えである。

今後の取り組み方針

・平成29年度には、まず事業予定地内にある既存建物の解体工事を行い、その後、今年度策定した土木測量設計及び地質・磁気探査と実施設計をもとに、事業予定地の造成工事を行う計画である。
・平成30年度には、今年度策定した土木測量設計及び地質・磁気探査と実施設計をもとに、5月に幼保連携一体化施設の園舎工事を、9月には外構工事を発注し、平成31年3月に工事を完了させ、翌月の4月1日には開園予定である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
102,839	102,839	82,271	20,568	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、村の契約規則に基づき、随意契約及び指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○用地購入額については、鑑定評価額に基づき積算を行っており、適正であったと考えている。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模については、入札残による減額であり適正な規模であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、業務完成検査を実施しており、目的に即し必要なものであると判断した。